

九条だより

第184号

北広島九条の会 2023・04・01 発行
事務局 梁川彰博 (ヤガワ アキヒロ)
TEL・FAX 375-9600
メール kitahiro-9jounokai@live.jp
ホームページ www.kitahiro9.org

◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇
【訃報】 当会の創立以来長く共同代表を勤められた鈴木重雄さんが2月21日に亡くなりました。92歳。謹んでご冥福をお祈りします。
◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇

< 4月例会のお知らせ >

4月8日(土) 午後2時 団地住民センター

『いま憲法を考える—専守防衛と反撃能力』

弁護士 神保 大地 (じんぼ だいち) さん

いま憲法が、危機にあります。岸田内閣は昨年暮れ「安保3文書」の閣議決定を行いました。「専守防衛」と「反撃能力」について神保さんが分かり易く問いかけます。 資料代 200円 (高校生以下無料)

☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆

“抑止力”で戦争は防げない、憲法9条による対話と外交こそが今必要です。

岸田政権の暴走を止める共同の運動を。

「反撃能力」(敵基地攻撃能力)の保有は、先制攻撃に限りなく近く、これまで政府が一貫して堅持してきた憲法に基づく「専守防衛」を投げすてるものと言わざるを得ません。トマホークミサイルを400基アメリカから購入。「防衛費を5年で43兆円」、世界3位の軍事大国です。

◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇

お知らせ 中央「九条の会」呼びかけ人の作家・大江健三郎さんが3月3日に亡くなりました。大江さんはノーベル文学賞を受賞されて以降、「平和」と「反核」の運動にずっとかかわってこられ、時の政府に警鐘を鳴らし続けてこられました。合掌。

◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇

* 統一地方選挙の最中です。前半の道知事選と道議選は4月9日(日)の投票、後半の北広島市議選は、4月16日(日)の告示、23日(日)の投票です。市民連合北広島は、憲法の改悪を許さない「市民と野党の共同」の政治勢力の実現を目指します。

静岡県立大学名誉教授の西山克典さんのお話。

ロシアがウクライナに侵攻を開始して1年あまりが経過しました。今回のロシアとウクライナの戦争については、ソ連・ロシアとウクライナの関係を経史的ななか位置づけて見ていく必要があると思います。

20世紀は戦争の世紀といわれますが、戦争の在り方が文字通りの「総力戦」となりました。その中で第1次世界大戦中に起こったロシア革命は、無併合・無賠償、民族自決など「平和」を大きくアピールしました。その流れのなかで1928年には不戦条約も締結されました。しかし、ソ連は独ソ不可侵条約を結ぶとポーランド侵攻やフィンランドとの戦争などに踏み切り、独ソ戦が始まると最終的にはドイツ軍を退けましたが甚大な犠牲を余儀なくされました。この大きな犠牲は「祖国」の擁護を国民に求めるようになり「国家主権」が強調されるようになりました。

ペレストロイカを経て1991年にソ連が崩壊すると、ロシアは混乱の時代となりました。そのなかで大統領となったのがプーチンでした。彼はこの混乱を收拾して「ロシア」を再建しましたが、その歴史観は18世紀の皇帝エカチェリーナ2世を好み、革命とレーニンを歴史的なロシアを崩壊に導いたとして否定しています。彼女のウクライナ政策がプーチンの志向の基礎にあります。2020年の憲法では「ロシア連邦が千年の歴史で統一された国家」と規定されています。

ウクライナは複雑な歴史を持っています。古くはモスクワがまだ辺境の地だったころには先進地帯でしたが、エカチェリーナ時代にロシア帝国に併合されます。ロシア革命が起こるとソヴィエト連邦を構成する共和国の一つとなり、農業・鉱工業などソ連の経済を支えました。ソ連崩壊によって独立しましたが、民族構成・宗教が複雑で国内の統一に困難を抱えるとともに、ロシアとの関係にも難しさがありました。大統領選挙では、親ロシア派の大統領が勝利したり敗北したりしています。21世紀には「オレンジ革命」「マイダン革命」などを経て、ポロシェンコ大統領のもとで民族国家主義へ傾斜していきます。ロシアとの対立が深まるなか、国内ではロシア系住民との対立が高まります。「ミンスク合意」（2014年、2015年）では、停戦と外国軍の撤退、ロシア系住民の多い東部2州に「特別な地位」を認めることなどが確認されましたが実現しませんでした。ロシアの侵攻が始まると、ゼレンスキー大統領は戒厳令を布告して総動員体制に入り議会・政党の活動も制限されました。

今後の展望については、ミンスク合意と国連総会決議の和平構想に基づいた解決を目指さなければならないでしょう。ロシアもウクライナも、地域と歴史の多様性、地域住民の民主主義に基づく連邦国家を形成していくことが必要です。その際、「人権」という視点が重要です。軍事力とその均衡抑止や軍事同盟強化の思想ではなく、平和に生きる「人権」という思想が求められます。その際、私たちは日本国憲法の前文と第9条、国家の交戦権否定の歴史的意義をあらためて認識する必要があります。

◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇

「まなび座」からのお知らせ（事前にテキストをお求めください。）

4月22日（土） 午前10時～正午 広葉交流センター

<テキスト>『ゼロからの「資本論」』 斎藤幸平著 NHK出版新書

どなたでもご自由に参加できます。直接会場にお越しください。